



会 報

75

静岡エネルギー・環境懇談会

2026年 新年ご挨拶

静岡エネルギー・環境懇談会 会長 奥野 健二

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆さまには、明るい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月には「2025大阪・関西万博」が開幕し、約2,900万人を超える参加者で大変賑わいました。また、10月には日本憲政史上初の女性首相となる高市早苗首相が誕生され、所信表明演説では、「強い経済を作る。日本列島を強く豊かにしていく。」方針のもと、エネルギー安全保障に関しては、「安定的で安価な供給が不可欠であり、原子力やペロブスカイト太陽電池を始めとする国産エネルギーは重要である。」「次世代革新炉やフュージョンエネルギーの早期の社会実装を目指す。」との施策が掲げられました。



2月に閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」においても再生可能エネルギーや原子力などの脱炭素電源を最大限活用することが必要不可欠とし、再稼働の加速に向け官民を挙げて取り組むとされており、11月21日には、福島第1原子力発電所事故から14年を経て、東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所6号機の再稼働を新潟県知事が容認する運びとなった点については、国の避難路整備や県民への意識調査など、まさに官民を挙げた活動の結果であり、東京電力はより一層の安全意識と安全対策への向上に努める必要があると感じております。

また、全国的に電力の需要が増加すると予想されている中、太陽光発電の弊害や洋上風力発電事業の撤退も報道されている状況において、温暖化ガスの排出実質ゼロを目指しながら電力需要に対応するためには、他の原子力発電所の再稼働も順次行われなければならないと、静岡県内に立地し、現在、新規制基準適合性確認審査中の中部電力(株)浜岡原子力発電所についても基準地震動・基準津波が確定し最終のプラント審査に進んでいることから、早期に合格することが出来るよう期待しております。

再稼働にあたっては、首長を始めとした地元の理解が必要ですが、放射線への不安や原子力に対する世論は依然厳しいものがあります。理解を得るには、正確な科学的知見に基づいた情報発信が益々重要になるものと考えております。

当会としましては、このような状況の中、エネルギー関連施設見学会、放射線に関する出張授業・セミナー、各種情報提供などの活動をさらに強化して実施していくとともに、カーボンニュートラルやグリーントランスフォーメーション(GX)実行会議などのエネルギー政策の現状を踏まえ、今まで以上に、原子力発電を含めたエネルギーミックスや地球温暖化問題の情報発信、科学的知見に基づいた放射線の啓発が重要と考え、「face to face」での活動を基本として展開してまいります。引き続き、会員の皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びとなりますが、皆さまの今年の益々のご活躍とご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

～事業活動の実施状況～

1. 会員見学会

2025年10月23日(木)～24日(金)に20名の皆さまに参加いただき開催しました。

今回は、東日本大震災から14年を経て2024年11月に再稼働(発電再開)を果たした「東北電力(株)女川原子力発電所」と震災による犠牲者の追悼と鎮魂、震災記録を後世へ伝承することを目的に整備された「東松島市震災復興伝承館」を見学しました。

(1) 女川原子力発電所・女川原子力PRセンター【東北電力株式会社】(2025年10月23日)



(引用:東北電力(株)パンフレット)

「女川原子力発電所」は宮城県にある牡鹿半島の中ほど、女川町と石巻市に立地しています。東日本大震災では、震源地から最も近い原子力発電所であり、震度6弱・地震加速度567.5ガルを記録し、最大約13mの巨大津波に襲われながらも、3機全ての原子炉が安全に冷温停止されました。

女川原子力PRセンターでは、女川原子力発電所の村松所長代理より震災当時の状況や安全停止できた要因についてご説明いただき、館内見学の後、発電所構内に移動、バス車中から新規制



基準の安全審査に合格した防潮堤、非常時用ガスタービン発電機や高圧電源車等を見学。そして停止中の3号機原子炉建屋・タービン建屋内を隅々まで見学することが出来ました。

[安全に停止できた理由]

大地震を受けながらも「止める」

「冷やす」「閉じ込める」が機能し、安全に原子炉を停止できた要因としては、

(引用:東北電力(株)パンフレット) 震災前からの備えにあり、1号機設計当時(昭和40年代)の津波高さが3m程度の想定に対し、社内委員会(社外専門家含む)にて869年貞観津波や1611年慶長三陸地震津波の研究結果および自社による調査を踏まえ「過去の津波を考慮すれば、もっと大きくなることもある



(PRセンターの様子)



(PRセンターの様子)

だろう」といった議論等を経て総合的に判断し、主要建屋1階の高さを海拔15m、敷地の高さを海拔14.8mに決定したとのこと。原子炉を冷やすために重要な海水ポンプも14.8m敷地内に設置していた為、津波を受けず正常に機能したとのことでした。また、国の耐震指針の見直しや知見を踏まえ、2010年6月末までに1～3号機の合計約6,600カ所の機器や配管の耐震補強工事を実施したほか、あらゆる対策を先んじて実施してきた結果、震災時は、1・3号機は通常運転中、2号機は原子炉を起動したばかりでしたが、大きな揺れにより3機全てが設計通り自動停止し、5回線の内1回線確保された外部電源により海水ポンプも機能したことから、正常に冷温停止に至ったとのことでした。

[地元への支援・国際的な評価・再稼働への更なる安全対策]

大震災当日の午後4時過ぎ、津波で被災された発電所の南側地区住民の皆さんや土木工事の作業員の方々が発電所に避難されてきた際、本来なら核物質防護上の観点から原子力発電所に一般の方は簡単には入れないところを、人命にかかわる緊急事態と判断し即座に発電所構内への受入れを決断。発電所構内にある体育館を避難所として開放し、以降6月6日までの約3ヶ月間、最大で364名(3月14日)の住民の方々などが避難生活を送られたとのこと。急遽、避難して来た人の中には、出産予定日が翌週に迫っていた人もいたそうです。(救援物資輸送ヘリに乗り、仙台市内の病院へ搬送)



(引用:東北電力(株)パンフレット)

発電所員の方々は、家族の安否確認もできないまま必死の思いで火災や海水流入などへの対応に注力している中であっても、住民の皆さんの安全も最優先に考えて行動されたことは、何よりも素晴らしい判断であったものといたく感心しました。また、国際原子力機関(IAEA)から「厳しい状況下にあったが、驚くほど損傷を受けていない。」との報告がなされたほか、世界原子力発電事業者協会(WANO)からは、「震災で被災した地域住民を受入れ、地域とともに困難を乗り越えたこと。」等が評価され『原子力功労賞』を受賞されました。

新規規制基準への対策では、基準津波高さを23.1m(3.11大震災の津波高さは約13m)と評価し、全長800m



(引用:東北電力(株)パンフレット)

の防潮堤は「技術的に建設可能な最も高い防潮堤を作る」という方針により、海拔29mの高さの鋼管式鉛直壁(680m)と盛土式堤防(120m)で完成されており、その壮大さに圧倒されました。その他にも、更なる耐震補強工事など万全な対策が施されており、地域の方々を大切にする気持ちとともに、安全を追求する企業姿勢に感銘を受けました。

(2) 東松島市震災復興伝承館(2025年10月24日)

東日本大震災復興記念公園内に位置し、被災したJR仙石線旧野蒜駅を活用し、震災前の東松島の姿、震災が残した爪痕、復興の過程を年次ごとにパネルの回廊による展示や被災時刻で止まった壁掛け時計、被災した発券機、大型スクリーンでの東日本大震災記録(津波映像)の上映、屋外には慰霊碑モニュメント、震災遺構の旧野蒜駅プラットホームなどを見学することが出来ました。中でも1階の壁面には、震災時の津波浸水深3.7m

(JR仙石線旧野蒜駅を活用)



(引用:パンフレット)



(伝承館にて、職員の方から被災当時の状況説明)

の位置に赤いラインが引かれており、実際に津波被害を受けた状況がリアルに反映され、改めて津波の恐ろしさを感じました。また、伝承館より海側は震災以前の町の営みは少なく、ほとんどの住宅は高台を開拓した陸側に移住しているとのこと、教訓を生かした整備が進められていました。

東日本大震災 津波浸水深3.7m

2. 放射線に関する情報発信

「放射線」を正しく理解いただく情報発信を今年度もラジオ放送で実施しました。

SBSラジオ(静岡放送)「IPPO(いっぽ)」のコーナーにて、8月8日から毎週金曜日の3回シリーズで岡田往子さん(東京都市大学 理工学部 原子力研究所 客員教授)とパーソナリティ影島亜美さんとの掛け合いで実施しました。内容は、「暮らしの中の放射線」について、放射線は身近にあること、放射線の健康への影響、放射線が医療・工業の分野で利用されていることなどについて解りやすくお話しいただきました。

その後、静岡新聞読者2名と岡田さんとの座談会を実施しました。参加者からは、「放射線と聞くと、『怖い・危険』と思っていましたが、食べ物や大気など私たちの身の回りに存在することや医療にも使われていて役立っていると知り、むやみに怖がる必要はないと理解できました。」と言った感想がありました。今回のラジオ放送、座談会の内容については、新聞、Web、情報紙を活用して広く静岡県の皆さんへ情報発信を行いました。



【9月23日静岡新聞掲載記事】

3. エネルギーに関する情報発信

日本のエネルギー問題について、若い世代が関心を持ち理解を深めていただくことを目的に、Webサイト「womo」のコラムに、「今、学んでおきたい! 暮らしに関わるエネルギーのこと」を掲載しました。講師に吉橋幸子さん(名古屋大学 核燃料管理施設 大学院工学研究科総合エネルギー工学専攻 教授)をお迎えし、エネルギー問題について、womoモニター2名に学んでいただき、その内容を12月9日、23日の2回に分けて発信しました。内容は、エネルギー自給率が低い日本で安定的に電力を供給するため、様々な発電方式を組み合わせるエネルギーミックスはどのような電源構成が望ましいかなど、自らの問題として考えていただきました。

4. 出張授業・出前教室

放射線に関する出張授業・出前教室では、放射線の基礎について学んだあと、簡易霧箱を使った放射線の飛跡観察や簡易測定器を使用した放射線の実験を実施しています。12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

- (1) 出張授業: 小学校(4校) 中学校(2校) 高等学校(6校) 大学・専門学校(3校)
- (2) 出前教室: 一般(5団体)

5. 企画展

科学館などで開催される科学イベントに出展し、簡易霧箱による放射線の飛跡を観察する科学実験を実施しています。12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

- ・青少年のための科学の祭典 第29回静岡大会: 8月11日(月・祝) 静岡科学館る・くる
- ・体験! 科学実験2025 inぬまづ第13回大会: 9月21日(日) 沼津市プラサヴェルデ

6. 見学会

エネルギー関連施設見学会の12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

- ・浜岡原子力発電所見学 中学校(1校)、高等学校(4校)、一般団体(1団体)
- ・駿遠変電所見学 高等学校(5校)

編集後記

気持ちを新たに放射線・エネルギーについて、解りやすい情報発信に努めてまいります。

本年も皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。(事務局一同)

今後の主な行事予定(1月~3月)

- (1) 出張授業: 中学校(4校)
- (2) 企画展: 2025年度サイエンスピクニック(2026年3月8日(日))
- (3) 見学会: 中学校(1校)・高等学校(1校)

〒420-0032 静岡市葵区両替町2丁目4-15(静岡O.Nビル8階)

静岡エネルギー・環境懇談会

TEL(054)253-4140 FAX(054)253-4160

